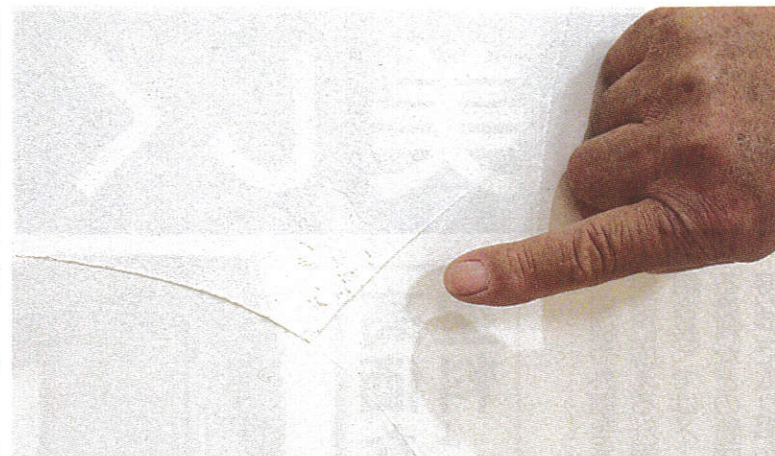




金森建築の「体感ルーム」(北秋田市米内沢)



「体感ルーム」の壁に施した「幻の漆喰」



米内沢に「体感ルーム」



「体感ルーム」の特別なスギ材について説明する社長と専務

住宅紙上見学会

音楽で熟成した木材 赤貝の殻原料の漆喰

秋田ではまだ聞き慣れない商品をよく知ってもらおうと、北秋田市米内沢の見学用「体感ルーム」を公開している。

「音響熟成木材」の床材や柱材を用い、壁に「幻の漆喰」を施した。金森勝三社長(69)は「部屋は暖まりやすく熱が逃げにくい。しっかりとした感じがあるでしょう」とアピールする。

ドイツの作曲家・バッハの名曲を木材に聴かせる。そんな説明に「笑い出す人もいる」というが、金森社長は意に介さない。品質への自信は揺るがず「無駄に乾かないから木材に狂いが出ない」と胸を張る。

体感ルームの見学客から「落ち着く」など、同社は金森社長が1973年に創業。2001年6月に有限会社化した。現在は長男の金森秀信専務と社員4人。

金森建築
北秋田市根田字家の前64
☎0186-78-2763

自然素材で健



(HP)によると、南九州産のスギを使用している。常温熟成庫の中にスギ材を並べ、クラシック音楽を聴かせている。「木にストレスを与えず熟成乾燥させる」手法によって「生きた木材に仕上がるとPR。機械乾燥し4年ほど前から仕入や自然乾燥に比べ、防菌作用や保湿度、保温性が期待できる」としている。木材の風合いをそのまま生かして住宅

「幻の漆喰」の風合いも確かめられる。壁の漆喰はあえて厚みを持たせ、塗った跡が分かるようにしてある。化学成分を含む接着剤を使わずに済むことも安心材料の一つという。最近「自分で漆喰を塗り、仕上げたい」という客の希望にも応えている。



新築・リフォームなどお気軽にご相談下さい。親身になってご説明いたします…

秋田杉の香る家 一棟一棟、願いを込めて建てています